



新鶴見小

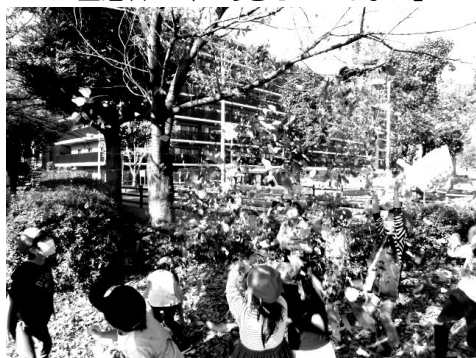
江ヶ崎町2番1号 ☎583-8915

「子どもの学びを止めない」

副校長 岡崎 大輔

例年に比べると今秋は、紅葉の色付き具合がとても鮮やかだったと感じているのは私だけでしょうか。昼夜の寒暖差が大きい、日照時間が長い、降雨が少ないことなどが紅葉の好条件とされていますが、ここ数年は色付くより前に葉が落ちてしまい、もっと紅葉を見ていたかったと感じる年が続いていました。今年はサクラの葉が橙や黄に色付き、イチョウが真っ黄色にそびえ立ち、モミジが緑から赤のグラデーションとなって、これぞ紅葉と思わせる美しい「風景」を見ることができました。この「風景」とは紅葉の名所のことではなく、本校に根差す木々の様子です。その他にも立派な実をつけるミカンの木や、まんまるなドングリを落とすクヌギの木もあります。木を植えた当時、きっと今の「風景」を思い描いていたのではないのでしょうか。25周年を迎えた本校の木々は、コロナ禍においてもしっかりと根を張って、四季を感じ取りながら佇んでいます。

生活科1年「あきといっしょに」



低学年の子どもたちは、新鶴見公園へ「秋さがし」に出かけています。先日その様子を見に行ってみました。1年生はすでに公園から戻ってきたところでしたが、正門前の自然広場で「葉っぱのプールだ!」「葉っぱのシャワー!」と言いながら、集めたサクラやイチョウ、クヌギの枯葉を舞い上がらせて遊んでいました。私は思わず持っていたカメラのシャッターを切りました。一人が始めたことをきっかけに、それを「楽しそう。」「やってみよう。」と感じ取り、友達がどんどん集まっていくことで集団遊びとなりました。

もともと「秋さがし」へ出発した子どもたちの学習が「秋あそび」へと発展していた様子を見て、主体的な学びの姿だと感じました。そこに新鶴見公園があり、そこに自然広場があり、そこに積もるほどの枯葉があること。環境が整ったとき、子どもたちの学びが始まります。そして自ら問題を見付け、それを解決しようとするのが、求められている学びの姿であると言えます。手前味噌ではありますが、そんな学びの場が本校には当たり前のように、身近にあることに感心するとともに、感謝しています。

10月のスポーツフェスティバル後、鎌倉見学（6年生）や土曜参観、三浦校外学習（4年生）と行事が相次いで行われています。12月3日には5年生が足柄校外学習へと行ってまいります。日々の健康観察や感染症拡大防止に努めるなかで、幸いなことにこれまで予定どおりに進めることができています。行事がすべて延期となった前期を思い出すと、学校の日常が少しずつ取り戻されてきています。学校は学習の場であると同時に、子どもたちが共同生活や行事での体験を通して、大きく成長する場でもあることを再認識しているところです。感染症拡大が収まることを願いつつ、新たなスタイル、新たなシステム、新たなチャレンジを目指して教育活動を進めていきたいと考えています。地域、保護者の皆様のご理解とご支援を賜りますとともに、今後も新鶴見小学校をよろしく願いいたします。